



文化庁

歴史文化基本構想の概要

文化財の保存・活用を通して、歴史や風土を学び、ものづくり文化をさらに洗練していくことを目指す。また、市民一人ひとりが高岡市の「人・ものづくり・文化」を担っているという意識を高めていくことを通して、市民が郷土に対する誇りを持ち、ものづくりの結晶が輝くまちを実現していくことを将来像とする。

観光拠点形成の方向性

- ・日本遺産認定、ユネスコ無形文化遺産登録を活かす環境整備
- ・北陸新幹線開業を契機とする高岡の多様な文化、伝統、産業の活用

観光に関する課題

- ・中心市街地から離れている伏木地区の歴史的価値等の魅力発信
- ・インバウンド対応として施設案内や文化財紹介の多言語化



事業概要

QRコードによる主要文化財説明板の多言語化

重要文化財や重要伝統的建造物群保存地区など、観光拠点として活用していく高岡の主要な文化財の説明版にQRコードパネルを添付するとともに、それぞれのリンク先のホームページ内容を多言語化（英語、繁体字、簡体字）する整備を実施。

情報発信



KPI 高岡市宿泊者数：250,241人(H28)→255,245人(R1)

勝興寺を活用したイベント事業開催

勝興寺を地域のために活かすアイデア等を地域で考え、実行することを目的にワークショップを実施（参加数 23名 5～6名×4グループ）。ワークショップにおいて実行力を認めたメンバーを改めて集め、アイデアを形にするために準備会議を開催し、トライアル事業として寺院発アートイベント「ふるこはんフェス」を開催。フェスでは、坊主カフェ＆バーや音楽法要といった真宗寺院ならではの演出を組み込むことに注力。

普及啓発



KPI 勝興寺ほか2館の来場者数：17,484人(H27)→18,009人(R1)



成果

① 「おもてなし」環境の向上

QRコードによる主要文化財説明板の多言語化を図ることで、訪日外国人観光客をはじめ、市外から訪れる方に高岡をより楽しんでいただける「おもてなし」環境が向上した。

② 寺院を核とした観光まちづくりの萌芽

勝興寺を地域のために生かし、後世に継承していくため、心の拠り所としての寺院と観光資源としての寺院の両立に向けた地域人材の育成や環境整備の端緒となった。

高岡市【富山県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業

中部地方



■協議会メンバー…
高岡市日本遺産推進協議会／勝興寺まちづくり協議会／高岡市教育委員会

■構想策定年度…
平成二十三年三月
■補助事業期間…
平成三〇年四月二日
平成三一年三月二九日